



一般社団法人U-a-Kokua代表
さいきときえ
齋喜 逸江さん

結婚をきっかけに鳩山町に移住した齋喜さん。マルシェのシェアオフィスを事務所として定期利用し、「一般社団法人U-a-Kokua」を立ち上げました。齋喜さんがマルシェで起業しようと思ったきっかけは何だったのでしょうか。

住み慣れた地域で安心して暮らせるお手伝いを

高齢者施設で10年以上、障害福祉で4年間勤務した経験があります。起業を考えたのは、この経験を通じて住み慣れた地域で高齢者が安心して暮らせるよう、困ったことをお手伝いしたいという強い想いから。

拠点となる事務所を探していた時に知ったのが、マルシェのシェアオフィスでした。「気軽に借りられるので、まずはやってみよう」と思いました」と話します。起業した当時はゼロからのスタートでしたが、マルシェに訪れる方と交流し、集客に繋がりました。マルシェスタッフやニュータウンふくしプラザ職員と、情報を共有し、気になる方がいたらお声がけするタイミングもあります。

普段は、高齢者の草むしりや電球交換、家庭の掃除、病院への付き添い等、日常生活サポートを行っています。また、月に1度同じマルシェ内にあるニュータウンふくしプラザで、脳トレ活動も行っています。利用者の方は、「優



みんなの「やりたいこと」がまちづくりに繋がる場所



シェアオフィス



シェアキッチン

鳩山町コミュニティ・マルシェとは？

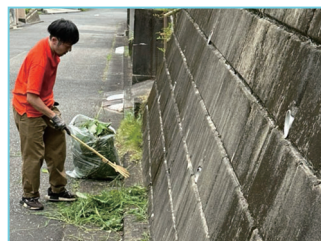
鳩山ニュータウンの中にある、鳩山町コミュニティ・マルシェ（以下、マルシェ）は、働く・支える・移住するをキーワードとした複合施設です。

施設内には、「移住推進センター」「まちおこしカフェ」「シェア・オフィス」「ニュータウンふくしプラザ」があり、日替わりランチやお弁当、サンドウィッチ、スイーツなどの飲食物販売や地域の皆さんのハンドメイド作品等の委託販売、地場野菜の販売などを行っています。

趣味を仕事にできる場所

「シェア・オフィス」は、ワイヤレスインターネット接続（WiFi）も完備されています。個人オフィスや、少人数でのサロン、教室、自習室など様々な用途に使えます。

「シェアキッチン」では、マルシェ内で調理・加工した飲食物を提供し、カフェの運営ができます。複数の方が日替わりランチなどでまちづくりカフェを運営しています。多様なメニュー・販売物で町



▲活動の様子。草刈りから清掃まで、サービス内容は多岐にわたります。

事業を拡大し、幅広いニーズに応えたい

しい方が多く、嬉しい言葉をかけてくれます。草むしり等は体力を使いますが、頑張れます」と笑顔で話します。

スタッフは2人ですが、それゆえの気軽さも魅力のひとつ。利用者に寄り添ったサービスを心掛けています。引き続きマルシェのシェアオフィスに拠点を置き、高齢者の日常生活サポートと地域限定のお助けをします。また、シアアの方々が楽しく集まれる場所を目指します。「幅広いニーズに応えるためのベビシッターや病児看護、移動販売等もできるように頑張ります」と語ります。

行政の手の届かないところをサポート！

鳩山町コミュニティ・マルシェのシェアオフィス定期利用者で、2021年に「一般社団法人U-a-Kokua」を設立。高齢者の日常生活のサポートや地域限定のおたすけサービスを実施中。ニュータウンふくしプラザでも活動。



公式 HP



公式 SNS



公式 SNS

私自身もマルシェを起点にコーヒー開発や御用聞きサービスなど、起業を行いました。

マルシェは様々な起業家に出会える空間です。町の方々が地域の中で好きなことを仕事にするための一歩を踏み出すサポートをこれからも続けていきたいです！



鳩山町コミュニティ・マルシェ指定管理者
ディレクター

もといえとよひろ
本家 豊大さん

今月号では、マルシェをきっかけに起業した方に話を聞きました。
■問合せ 鳩山町コミュニティ・マルシェ
☎272-7528

民の皆さんに大人気のカフェです。趣味を仕事にできる場所です。
マルシェで新たな一歩を

マルシェでは、起業を支援しています。マルシェのまちおこしカフェやシェアオフィスで活動されている方の中には、ここでの活動がきっかけとなり、起業した方もいます。皆さんの「やりたいこと」がまちづくりにつながるコーディネートも行っています。



子ども体験学びラボ
なぎらかずき
柳楽 一輝さん



Putney Bake
いまなが まゆみ
今永 真弓さん

「地域で起業 シェアハウスT」に入居している柳楽さん。

岡山県出身の柳楽さんは、カフェめぐりが趣味で、ふと入ったカフェでマルシェのチラシを見て来館したことが、マルシェで活動を始めるきっかけとなりました。

**子育てしている
親の力になりたい**

平日は会社員として勤務し、休日に3歳以上の預かり等を行う子育てパートナーとして活動しています。「県内のフリースクールでお手伝いもさせていただいています。こどもが好きなので楽しい時間です」と笑顔で話します。

起業したきっかけの一つは、自身がひとり親家庭で育ったこと。多忙な毎日の中で子育てに余裕が無くなってしまった親の力になりたいと思ったそうです。また、「落ち着きのない性格のこどもと出合い、昔の自分を見ているような感覚になりました。こどもの気持ちをもっと汲み取り、寄り添いたい」と、チャイルドマインダーという資格を取得しましたと語ります。少人数で家庭的な保育方法を学び、こども一人ひとりの興味や関心に寄り添った保育を心がけています。

一時預かり事業では、保護者の方が生き生きできる余暇時間をつくること、こどもたちが遊びながら学ぶ機会をつくることのできるように意識していると言います。

人気のスイーツたち



マカロン



フルーツタルト



ガトーショコラ

都内から鳩山町に移住した後も、しばらくは都内へ仕事で通っていました。都内での仕事を縮小し始めたころに、こどもの頃からお菓子作りが好きで、仕事の合間に趣味として続けていたこともあり、近くのパティスリーで働き始めました。同じころに、マルシェが開館し、菓子製造室でお菓子を製造して販売もできるということで、活用させていただいていました。

起業のきっかけは、にんじんや小松菜、ピーツの野菜パウダーで作ったマカロン

「マカロン」 起業のきっかけは



マルシェだけでなく、町内の農産物直売所などでよく見かけるお菓子やケーキを作っているのは、町内に在住の今永真弓さんです。

今永さんが起業したきっかけは何だったのでしょうか。

**失敗をしてもいいんだと
考える居場所になりたい**

マルシェが開催する子育て関連のイベントでは、一時保育のサポートや出店をするなど、連携しながら保育事業に取り組んでいます。

こどもにとってお兄さんの存在でありたい、失敗をしてもいいんだと思える居場所になりたいと話す柳楽さん。「まずは仲間を作り、土日だけでなく、平日保育も実施できるようにしたいです。また、こどもと地域をつなげる仕組みを作りたいです。地域の困りごとをこどもたちと保育者が一緒に解決していくことで多くの学びがあると思いますし、地域の方に感謝していただくと嬉しです」と話します。



▲預かり時には選択肢をいくつか用意し、外遊びやボードゲーム、カードゲームなど、こども一人ひとりの興味関心に寄り添います。

サラリーマンが子育てサポートに挑戦

岡山県津山市生まれ。こども時代に他人軸で生きてきた後悔の経験から、哲学と教育学に興味を持つ。現在は車載製品のシステムエンジニアとして仕事をしながら、こどもたちの笑顔が見たくて「遊びと学び」の場づくりを実践し、子育てパートナーとしても活動中。



公式 HP



公式 SNS

お菓子作りから、こども支援に！

こどもの頃からお菓子作りや手芸などのモノづくりが好きで、高校卒業後は衣装制作の仕事へ。仕事の合間に趣味としてお菓子作りを続け、鳩山町に移住後、周りの後押しもあり、2020年 Putney Bake を始める。店名の Putney は留学していたころに住んでいたロンドン西部に位置する街の名前。



公式 HP



公式 SNS

スマッシュゾーンは、近隣の方がいちごを買ってきてくれたり、お手伝いをしてくれます。とてもありがたいです」と話す今永さん。

「今まで通り、マルシェでの活動もしていきつつ、今年は児童養護施設にいるこどもたちにパースデーケーキをプレゼントしていきたいです。マルシェで縁のある方に色々と意見を聞いて、まずは手の届く範囲のことから始めていこうと思っています」と夢を語ります。